

ALOS-3 Workshop 議事メモ

セッション 1 : ALOS-3 について

- 降交点通過時刻 : 午前 10:30
- 分解能 : PRISM-2 : 0.8m(直下視)、1.25m(後方視)、HISUI/MS : 5.0m、HISUI/HS : 30m
- 観測幅 : 50km(直下視)、TBD(後方視)、HISUI/MS : 90km、HISUI/HS : 30km
- HISUI/MS : 4 バンド(0.45 μ m-0.89 μ m)、HISUI/HS : 185 バンド(0.4 μ m-2.5 μ m)

【ALOS-3 への期待】

- ✓ PRISM-2 後方視観測幅は、直下視と同じ観測幅をお願いしたい。

セッション 2 : 現業への活用 1 (地図作成、GIS、災害)

- 0.5m 以下の地上分解能があれば、単画像でも判読可能である。→ALOS-3 では、パンシャープンを作成すれば判読可能である。
- 衛星画像を用いた火山モニタリングは、周期観測、アクセス困難地域での観測、広域観測ができる。

【ALOS-3 への期待】

- ✓ PRISM-2 の直下視と後方視は同じ観測幅が非常に良い。分解能は、直下視が 0.8m なら後方視は 1.25m でも良い。
- ✓ 火山噴火時、PRISM-2 と HISUI/MS の同時観測、MS の高分解能化と夜間観測を希望する。
- ✓ HISUI/MS の位置精度の向上、また PRISM-2 は可能であれば三方向視、少なくとも二方向視をお願いしたい。また、観測頻度の増大も希望する。

特別セッション : 東日本大震災やタイ洪水ではたした地球観測衛星の役割

- 災害観測には SAR と光学両方の観測、原発には高分解能画像、及び DRTS の更新が必要である。
- 災害時のデータ公開方法等、戦略本部含めて検討していきたい。
- 都市洪水は日本でも起こりえるが、災害前データの整備や GIS データが必要である。

セッション 3 : 現業への活用 2 (農業、森林、環境)

- ALOS-3 画像を用いて、森林分野の実利用を図っていく。
- 農業分野では、MS では波長分解能が足りないので、HS が必要である。
- 国内外の行政が ALOS データを利用するには、技術者と研究者が歩み寄ってアドバイスする必要がある。

【ALOS-3 への期待】

- ✓ 農業管理を行い、日本で技術開発を実施し、発展途上国への技術提供を実施できる
- ✓ HISUI/HS の農業への利用は、テストサイトを決めてそこで観測して欲しい
- ✓ 分解能が高く、観測幅が広く、観測頻度が高く、幾何精度向上、リソース豊富、処理容易、面的整備可能、低価格がユーザの希望であるが、中でも観測幅、低価格、面的整備が重要である。
- ✓ ALOS-3 画像も RPC ファイルの提供をお願いしたい。
- ✓ 全世界を網羅的にモニタリング可能な衛星は必要である。

セッション4：新たな利用（研究、利用）

- PRISM/DSM 及び AVNIR-2 を用いて海水面を上げていくと更級日記と合う陸域状況になる。
- 沿岸生態系マッピングは、ASEAN 諸国において重要であるため、ALOS-3 に対する期待が高い。
- 沿岸生態系には、MS センサが必要でありその観測幅が重要である。

セッション5：全体まとめ

- PRISM-2 の位置精度向上には、GCP を取るのではなく、電子基準点等既にあるもので補正することを考えていくと良いのではないか。
- PRISM-2 と HISUI/MS の開発元が異なるのは、問題ないだろうか。
- 位置及び放射輝度の両補正精度は、ユーザ側で考えて頂き後日ご意見を頂きたい。

【ALOS-3 への期待】

- ✓ PRISM-2 の位置精度を向上させて欲しい。

参加者総数：160名